

コラム

みやちゃんご一緒体験記

Vol.46

哲学で考えるがん教育カフェ編② ～病気になっても、病人ではない～

9/4の週の印象的な出来事はなんといっても、だいぶ前から報じられていたジャニーズ事務所の未成年者性加害問題に対する謝罪会見ではないでしょうか。

引責辞任した代表にかわり、俳優の東山紀之氏が新社長となることになり、その報道がなされた日（9/7）の様子が一日中ニュースで流されていましたよね。

偶然ですが、その日の夜、会見に臨んだ東山氏の奥様で俳優の木村佳乃さんがメインキャストとして出演しているテレビドラマ「この素晴らしき世界」が放送されていました。この回では、木村さん演じる芸能事務所社長（あまり力がなく世慣れた男性幹部に軽んじられている）が、仲間たちと共に芸能界の性加害を暴露しようと大きな力に対して闘いを挑んでいく姿が描かれていて、興味深い思いでみておりました。

このドラマは、(9/14)に最終回を迎えてしまい、すっかりハマっていた私は残念でなりません。若村麻由美さん演じるフツの主婦が大女優の偽物になりすまして世直しをしていく爽快なストーリーは、ホントに心地よかったです。平凡な世界に生きる主婦の汚れなき純粋な目線だからこそ、異世界（この場合は芸能界）のまがった悪事に気づき許せず、巨大悪に対抗していくのです。「ま〜世の中って、こんなもんだから仕方ないさあ〜」とどっぷりつかった人であれば、感覚が麻痺するか諦めて何もしないか、ともあれこのような行動はとらないことでしょう。

この報道の余波は本原稿を書いている現在（9/15）も続き、「何をいまさら〜」「影響をうけて仕事がなくなった同事務所タレントが気の毒!」「彼等こそ被害者だ!」など様々な意見がでているようです。すんだことだからといってうやむやにするのではなく、さらに色眼鏡でみることを避け、この問題の本質は何なのかをよく考えることが必要なのは言うまでもありません。

•「この素晴らしき世界」（フジテレビ 毎木曜日夜10時放送）

<https://www.fujitv.co.jp/subaseka/>

さて、不定期シリーズでお届けすることになった「がん教育カフェ編」、第2弾は第5回目のオンライン講座（9月9日実施）について触れたいと思います。

この日の講演者は、愛知県春日井市のがん哲カフェ所属の金井愛さんで、がん患者さんです。

主宰者の一人、彦田かな子さんもそうですが、金井さんも壮絶ながん闘病を体験し、仕事と育児をこなしてきたパワーあふれる方で、しかも闘病は現在も続いています。そんな状況にも関わらずあまりに明るく笑顔あふれる話しぶりなので、闘病体験が存在したことが信じられない思いで聞いておりました。

○第5回（9/9土） 16：00～17：00

講師：金井愛氏（グルッポ藤等顔哲学外来メディカルカフェ）

「経験談から伝えたいこと」

※哲学で考える“がん教育カフェ”一般社団法人がん哲学外来 (gantetsugaku.org)

シングルマザーの金井さんが苦しい経験から伝えたいこと……。

支えてくれた2人の娘さんたちの「大丈夫と信じている！」という励ましと心いやしてくれる笑顔のおかげで、大病を乗り越えられたといます。

そして、すこし状況が落ち着いてくると、自分と同じがんで苦しんでいる人たちのために何かできないかと考え、できることを行動したそうです。その時、がん患者の自分でも“できることがある”“人の役にたてる”という嬉しさで胸がいっぱいになったと語ります。

人は生きがいがなくすと、早く老けるといいますが、病気の場合も同じことがいえますよね。病魔にむしばまれた身体でも、自分は生きていて、人のためになることができる。そう思うことが生きる活力を生み出すのでしよう。つまり、病気であっても、病人ではない、ということです。

苦境に立たされると、ポジティブに考えることが難しくなりがちですが、病気と闘う基本のキなのではないでしょうか。こういうことは、やはり体験した人でなければ発信できないものです。

さらに、「一人で悩まず、勇気をもって外へ踏み出すことが大事」と続けられました。

出口のみえない闘病生活にあって、金井さんの勇気は自分の体験を通したがん教育の普及へと結実したのでしょうか。

ホントに明るく、前向きで、精神的にタフながん教育外部講師のお話は、間違いなく迷える患者さんたちの心を奮い立たせてくれることのでしよう。